

講 義 概 要  
(シ ラ バ ス)

言語コミュニケーション学科

**【留意事項】**

- 1、授業科目目下に記載のある（ ）書きの記号及び番号はナンバリングと呼ばれるもので、「授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組」となっています。  
 言語コミュニケーション学科では28・29ページの「カリキュラムマップ」に記載がありますので確認してください。なお、記号の意味や番号等について概略を記載しておきます。

	100番台	200番台	300番台	400番台	記号の意味
言語コミュニケーション学科	<b>基礎的な学び</b> (社会人に必要なコミュニケーション能力の基礎を作る。各フィールドの基本的な学びに触れる。)	<b>発展的な学び</b> (修得した基礎力を発展させ、より一層のスキルアップを目指す。各フィールドに対する理解を深める)	<b>専門的な学び</b> (社会人に必要なコミュニケーション能力を確立させる。各フィールドの専門性を深める)	<b>応用的な学び</b> (社会人に必要なコミュニケーション能力を豊かなものにする。各フィールドの学びを完成させる)	基礎プログラム：B(Basic) ゼミナール：S(Seminar) 心理・医療福祉：P(Psychology) サブカル・日本文学：J(Japanese) 英語・国際文化：E(English) 情報・地域：I(Information) 図書館司書：L(Librarian) キャリア支援：C(Career) 認定単位：R(Recognized)

- 2、本学における「実務家教員」には担当者名の後ろに（※）の印を付しています。  
 実務家教員とは「企業や自治体などでの実務経験を持ち、教育研究の指導をする教員」「専攻分野における実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者」となっています。

## 【基礎プログラム】

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
日本語表現Ⅰ (B111)	2	必修	1年 前期	演習	上田 渡・田中 愛・ 北原 泰邦
【キーワード】 文章表現力・レベルテスト・論述力・課題探求力					
【授業内容・授業の目的】 文章表現力は言語コミュニケーション方法の重要な能力である。この授業では、大学生の基礎教養として必要な日本語表現能力を養成していく。授業はレベル別とし、セルフチェックテストを自主学习し、「レベルチェックテスト」(年5回)を受験してその成果を問う。合格点が取れれば上位レベルに進み、新たな学習目標を設定して、段階的に自分の日本語能力を伸ばしていく。					
【授業の到達目標(学習成果)】 この授業は、正確で的確な日本語による言語コミュニケーション能力を身につけることで、日本語の特性を理解し、基本的な日本語能力を養成することを目的とする。 (到達目標) 知識・理解…漢字・語彙・表現力の課題演習を通して、基礎的な日本語能力を理解することができる。 技能・表現…セルフチェックテストの課題演習を通して、豊かな表現力で文章を書くことができる。 思考・判断…意見文・論述課題を通して、自分の意見を論証する力を身につけることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	授業ガイダンス(レベル決定)		事前学習プリントの確認・答え合わせ(120分)		
2週	よい文章の条件とは何か		セルフテスト漢字の学習①(120分)		
3週	論理的な文章を書く方法		セルフテスト漢字の学習②(120分)		
4週	意見文の書き方を学ぶ		セルフテスト慣用句の学習①(120分)		
5週	事実文と意見文を書き分ける		セルフテスト慣用句の学習②(120分)		
6週	レベルチェックテスト第1回		セルフテストの総チェック(120分)		
7週	段落・接続詞・文の区切り表現を学ぶ		セルフテスト語彙・文法の演習①(120分)		
8週	文章要約の書き方を学ぶ		セルフテスト語彙・文法の演習②(120分)		
9週	要約文を書く(400字)		セルフテスト文法・敬語の学習①(120分)		
10週	文章を要約して意見文を書く(600字)		セルフテスト文法・敬語の学習②(120分)		
11週	課題文を読んで小論文を書く		セルフテスト四字熟語・ことわざの学習(120分)		
12週	レベルチェックテスト第2回		セルフテストの総チェック(120分)		
13週	論述文の発想方法を学ぶ		セルフテスト文章読解の演習①(120分)		
14週	論述文の構成方法を学ぶ		セルフテスト文章読解の演習②(120分)		
15週	文章の評価方法を確認する		学期末試験の事前学習(120分)		
【成績評価の方法・基準】 定期試験「筆記」(80%)、小テスト(20%) 知識・理解…定期試験・LCTで、基礎的な漢字力・語彙力が身につけられたかを評価する。 技能・表現…定期末試験・LCTで、日本語の適切な使い方や表現力が身につけられたかを評価する。 思考・判断…定期試験・LCTで、論理的な日本語文章能力が身についたかを評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日(金)					
【テキスト】レベル別セルフチェックテストL1~L8(自主学习課題)・短大就活手帳					
【参考書等】 清水幾多郎『論文の書き方』(岩波新書)、澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫)、本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)、権島忠夫『文章表現法』(角川選書)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 受講者は国語辞典を必ず持参すること。レベルは9段階。どんどんレベルをアップしてください。また、日本語検定3級資格にも、積極的にチャレンジしてください!!					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
日本語表現Ⅱ (B225)	2	必修	1年 後期	演習	上田 渡・田中 愛・ 北原 泰邦
【キーワード】文章表現力・レベルテスト・コミュニケーション能力・キャリア教育					
【授業内容・授業の目的】 基本的な文章表現法を発展・応用させ、自分の考えや個性を的確に相手に伝える表現力を養成する。キャリア教育に必要な待遇・接遇表現を学ぶことで、社会人として身につけておくべき基本的なコミュニケーション力を修養する。そのため、日本語能力検定・コミュニケーション検定などの資格取得に向けての学習や、履歴書・エントリーシート・作文・実践的な手紙の書き方などを演習する。					
【授業の到達目標(学習成果)】この授業では、新聞の論説文などを材料にその要点を整理し、各自の視点で物事を考える能力を養うことを目指す。また、社会人としての必要なコミュニケーション能力を理解し、実践することができるようにする。 (到達目標) 知識・理解…社会で通用する日本語力を身につけ、それを活用することができる。 技能・表現…基本的な日本語力を活用して文章を作成することができる。 思考・判断…論理的な思考で物を考え、それを実践的に活用する力を身につけることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	授業ガイダンス(レベル決定)	日本語表現Ⅰ前期試験の結果確認(60分)			
2週	小論文の書き方を学ぶ	セルフテスト慣用句の活用法①(120分)			
3週	小論文演習① 新聞コラムの活用	セルフテスト慣用句の活用法②(120分)			
4週	小論文演習② データ論述の方法	セルフテストことわざの活用法①(120分)			
5週	小論文演習③ テーマ論述の方法	セルフテストことわざの活用法②(120分)			
6週	レベルチェックテスト第3回	セルフテスト総合学習(120分)			
7週	就職対策の論作文の書き方①	セルフテスト総合学習(120分)			
8週	就職対策の論作文の書き方②	セルフテスト総合学習(120分)			
9週	コミュニケーション検定対策	コミュニケーション検定の学習(120分)			
10週	レベルチェックテスト第4回	自己分析ノートの作成①(120分)			
11週	自己分析ノートの書き方・作成	自己分析ノートの作成②(120分)			
12週	自己PR文の書き方	自己分析ノートの作成③(120分)			
13週	履歴書の書き方	履歴書の作成(120分)			
14週	手紙文の書き方	セルフテスト総合学習(120分)			
15週	レベルチェックテスト第5回	学期末試験の事前学習(180分)			
【成績評価の方法・基準】定期試験「筆記」(80%)、受講態度・提出物(20%) 知識・理解…定期試験・LCTで、社会に必要な基本的な漢字・語彙力が身についているかを評価する。 技能・表現…定期試験・LCTで、日本語の文章表現能力が身についているかを評価する。 思考・判断…定期試験・LCTで、社会に必要なコミュニケーション力が身についたかを評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】『短大就活手帳』					
【参考書等】 清水幾多郎『論文の書き方』(岩波新書)、澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫)、本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)、樺島忠夫『文章表現法』(角川選書)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】1年後期は、社会人として必要とされる文章表現能力を身につけることが目的です。自己分析をしっかり行い、志望する業界をよく研究したうえで、社会・企業との接点を見つけていくことが大切です。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
日本語表現Ⅲ(就職対策) (B319)	1	必修	2年 前期	演習	上田 渡・北原 泰邦
<b>【キーワード】</b> 日本語能力・課題発見力・就職対策					
<b>【授業内容・授業の目的】</b> 社会人として必要な文章表現能力・問題発見力を育成する。筆記試験・作文・小論文・面接などの就職試験に必須となる領域を演習することで、社会で必要とされる実践的な日本語能力を身につけることを目標とする。					
<b>【授業の到達目標 (学習成果)】</b> この授業では、社会人に必要なコミュニケーション能力の習得を目標とし、実用的な文章の書き方を実践する中で、社会で必要とされる表現力・思考力・基礎学力を会得することを目的とする。 技能・表現…社会人に必要な日本語力・一般常識・教養を身につけることができる。 思考・判断…論文の演習を通して、課題発見力を身につけることができる。 関心・意欲・態度…社会で必要なコミュニケーション能力を積極的に活用することができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	授業ガイダンス		参考文献等の確認(20分)		
2週	エントリーシートの書き方		ことばの常識の学習①(60分)		
3週	就職作文の対策と方法		ことばの常識の学習②(60分)		
4週	ことばの常識 小テスト 第1回		ことばの常識ノート提出と小テスト準備①(60分)		
5週	企業・業界分析の方法を学ぶ		ことばの常識の学習④(60分)		
6週	志望動機書の書き方		ことばの常識の学習⑤(60分)		
7週	ことばの常識 小テスト 第2回		ことばの常識ノート提出と小テスト準備②(60分)		
8週	社会人としての心構えについて		ことばの常識の学習⑥(60分)		
9週	SPI対策・面接対策		ことばの常識の学習⑦(60分)		
10週	グループディスカッションの方法		ことばの常識の学習⑧(60分)		
11週	ことばの常識 小テスト 第3回		ことばの常識ノート提出と小テスト準備③(60分)		
12週	課題提案型小論文の書き方		地域活性化の方法を調べる①(60分)		
13週	小論文「地域を活性化させる方法」①		地域活性化の方法を調べる②(60分)		
14週	小論文「地域を活性化させる方法」②		地域活性化小論文作成(60分)		
15週	授業のまとめ		定期試験の対策と学習(100分)		
<b>【成績評価の方法・基準】</b> 定期試験「筆記」(70%)、小テスト・ノート提出(30%) 技能・表現…定期試験を通して、社会人に必要な日本語能力を身につけられたかを評価する。 思考・判断…定期試験・小論文を通して、作文力・課題発見力を身につけられたかを評価する。 関心・意欲・態度…小テスト・提出物において、課題の演習に取り組めたかを評価する。					
<b>【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】</b> 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日(土)					
<b>【テキスト】</b> 土屋道雄『受験・就職ことばの常識 問題1849』(日栄社)・短大就活手帳					
<b>【参考書等】</b> 『就職試験 受かる小論文・作文模範文例』(新星出版社)					
<b>【学生へのメッセージ・履修上の留意点】</b> 就職試験対策は待ったなしです。作文・筆記・面接試験の準備をしっかりと、試験に臨みましょう。 自分の進むべき道は、自分自身で切り開いていく強い意志が必要です!					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
スタディスキル (B123)	1	必修	1年 前期	演習	田中 愛・青山千枝子・ 鈴木 泉子
【キーワード】 ノート・テイキング、学術的な文章の読み方、レポート作成、課題発見力、論理的思考力					
【授業内容・授業の目的】自ら課題を設定し、調査し、自分なりの見解を持つといった短大の学びに必須となる、ノートの取りかた、資料の探しかた、レポートの書きかたといったスキルを実践的に習得することを狙いとする。毎回の授業では、その回に習得すべきスキルについて概説したのち各自演習問題に取り組む。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業を通して以下の学習成果を獲得することを目標としている。 (到達目標) 技能・表現…学習に要する技能（スタディスキル）を身につけ、発揮することができる。 思考・判断…設定したテーマについて適切な根拠を提示し自分の考えをレポートにまとめることができる。 関心・意欲・態度…テーマを適切に設定し、学んだスキルを活かして適切に情報収集ができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	高校と短大の学びの違いについて		テキスト pp.8-11 に目を通し、高校までと短大での違いを挙げておく（30分）		
2週	ノート・テイキング		テキスト pp.12-13 に目を通し、普段ノートを取る際に意識している点を挙げておく（30分）		
3週	テキストの読みかた（1）学術的な文章とは		テキスト pp.20-25 に目を通し、内容を要約しておく（30分）		
4週	テキストの読みかた（2）読解の実践		テキスト pp.26-33 に目を通し、段落ごとに内容を要約しておく（30分）		
5週	レポートの書きかた（1）レポートとは		テキスト pp.34-37 に目を通し、内容を要約しておく（30分）		
6週	レポートの書きかた（2）引用の仕方を学ぶ		テキスト pp.38-41 に目を通し、内容を要約しておく（30分）		
7週	レポートを書く（1）テーマ設定		興味のあるテーマを複数用意する（60分）		
8週	レポートを書く（2）資料収集		テーマに関連した資料を検索・収集する（60分）		
9週	レポートを書く（3）「問い」を設定する		収集した資料に目を通しておく（90分）		
10週	レポートを書く（4）「主張」を予測する		収集した資料に目を通し興味のある点をあげておく（90分）		
11週	レポートを書く（5）「根拠」を集める		主張を確定しておく（60分）		
12週	レポートを書く（6）レポートの構成を考える		主張と根拠の要点を整理し、まとめておく（60分）		
13週	レポートを書く（7）レポートの作成		アウトライン（構成）を箇条書きでまとめておく（120分）		
14週	レポートを書く（8）レポートの推敲、提出		テキスト pp.41-43 を参考にレポートを作成する（120分）		
15週	レポート返却・まとめ		提出したレポートの写しを見本と比較し気付いた点をまとめておく（60分）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）60%、提出物（授業内課題）30%、受講態度10% 技能・表現…演習課題にて、ノート・テイキング、要約等のスタディスキルが発揮できているかを評価する。 思考・判断…定期試験（レポート）にて、自分の考えを適切な根拠を提示して主張できたかを評価する。 関心・意欲・態度…演習課題・受講態度にて、適切なテーマを設定し適切な参考文献リストが作成できたかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 定期試験（レポート）については、第15週にコメントを付して返却し解説を行う。					
【テキスト】世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック [5訂版]』世界思想社 (ISBN 978-4-7907-1749-2)					
【参考書等】戸田山和久『新版 論文の教室ーレポートから卒論まで』NHK ブックス					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 この授業で取り上げるスキル（技能）は短大での学びの基本であり、他の授業を履修する際にも必須となります。与えられた課題には期日までに真剣に取り組み、スキルを習得してください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
コミュニケーションスキルⅠ (B130)	1	選択必修	1年 前期	演習	河西 文子
【キーワード】 ボイストレーニング、言語メッセージと非言語メッセージ、話の聴き方、良い質問とは					
【授業内容・授業の目的】 多様な相手を受け入れ信頼関係を築くことこそ、コミュニケーションの第一歩である。まずはそのために必要な「相手を受け入れる力」と「聴く力」を養っていく。毎回、ストレッチや発声練習などのボイストレーニングを行うことによりリラックスする方法を身につけ「相手に届く声で」「はっきりと」伝える力を身につけていく。それと並行して、課題に対してグループディスカッションを行うことにより、相手を受け入れ、信頼関係を築く力を徐々に養っていく。					
【授業の到達目標（学習成果）】この授業の目標は、多様な相手を受け入れ信頼関係を築くための「良い話の聴き方」を身につけ、誰とでも適切なコミュニケーションをとることができる能力を身に着けることである。 技能・表現…ボイストレーニングを通じて、聞き取りやすい声、発音を身につける。 思考・判断…信頼関係を築くための要素を分析し、理解することができる。 関心・意欲・態度…多様な相手に対して信頼関係を築き、適切にコミュニケーションをとることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーションとボイストレーニング	「選択必修」の意味を理解しておく(0.5時間)			
2週	目標設定の方法を学び実習をする	受講による自分の到達目標を具体的に考える(1時間)			
3週	価値観の違いを学ぶ(グループディスカッション)	自分が大切にしているものを考えておく(0.5時間)			
4週	言語メッセージと非言語メッセージの違い	自分が気付かないクセを家族等に聞いてみる(1時間)			
5週	非言語メッセージの活用	小レポート①「非言語コミュニケーション」(1.5時間)			
6週	ミラーリングとペーシング(ペアで実習)	話しやすい雰囲気の人を観察する(1時間)			
7週	好ましい聴き方(ペアで実習)	ミラーリング・ペーシングを充分練習する(1時間)			
8週	バックトラッキング(ペアで実習)	バックトラッキングを充分練習する(1時間)			
9週	小レポートのフィードバック	フィードバックされた内容を復習する(1時間)			
10週	「聴くスキル」まとめゲーム(グループ実習)	小レポート②「良い話の聴き方を学んで」(1.5時間)			
11週	オープンクエスションとクローズドクエスションの特徴	家族・友人に様々な質問をしてみる(1時間)			
12週	オープンクエスションとクローズドクエスションの活用	オープンとクローズドの質問を意識してみる(0.5時間)			
13週	「質問」に関するゲーム(グループ実習)	ゲームを通じて「質問」の効果を考える(1.5時間)			
14週	雑談をはずませる効果的な質問	相手を知るための質問を考える(1時間)			
15週	課題作成のためのまとめ	今までの内容で解らない点を明らかにしておく(1時間)			
【成績評価の方法・基準】 定期試験(レポート)60%、提出物(小レポート)20%、受講態度20% 技能・表現…毎回行うボイストレーニングに対する取り組みと、技術の向上を評価する。 思考・判断…3回提出する小レポートと期末試験(レポート)により、学んだ内容を理解し、論理的に分析し、実生活上で活用できているかを評価する。 関心・意欲・態度…ペアワークやグループワークに対して、他者と協力して積極的に取り組んでいるかを評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 前期返還日8月4日(金)					
【テキスト】授業時に毎回プリントを配布する。					
【参考書等】コミュニケーションの書籍だけでなく、偏らず幅広い書籍を読むことを推奨する。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】授業の受講態度もコミュニケーションスキルの一つだと認識し、学ぶにふさわしい態度での出席を求めます。自身のコミュニケーション能力に不足を感じない人は、ⅠではなくⅡ(後期)のみの受講も可能です。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
コミュニケーションスキルⅡ (B231)	1	選択必修	1年 後期	演習	河西 文子
【キーワード】 原稿の読み方、伝えることの取捨選択、VAKシステム、アサーション、伝達のポイント					
【授業内容・授業の目的】 伝える順番や項目の絞り方、言葉の選び方など伝達のポイントを学び、自分が伝えたいことを、わかりやすく正確に伝える力を養っていく。ペアワークやグループワークを行うことにより、他の学生と相互に学び合い、体験を通して様々な相手に伝達するポイントをつかんでいく。並行して、ボイストレーニングを行うことで、聞き取りやすい声、発音を身につけていく。					
【授業の到達目標（学習成果）】 この授業の目標は、伝達の方法、ポイントを理解し、主に発信者として、年代、立場にかかわらず、様々な相手と適切なコミュニケーションをとることができる能力を身につけることである。 技能・表現…ボイストレーニングを通じて、聞き取りやすい声、発音を身につける。 思考・判断…わかりやすい伝え方について分析し、理解することができる。 関心・意欲・態度…習得した知識を生かし、相手に物事を伝える発信者として、正確にわかりやすく伝えることができる					
授業計画			準備学習等		
1週	決められた事柄を伝える（原稿を読む：理解）①		シラバスを良く読んでおく（0.5時間）		
2週	決められた事柄を伝える（原稿を読む：実習）②		発表などに備えて、原稿を読む練習を行う（1.5時間）		
3週	わかりやすく伝える①（考え方）		わかりやすく話す人を観察しておく（0.5時間）		
4週	わかりやすく伝える②（実習：グループワーク）		前回の復習をしておく（1時間）		
5週	わかりやすく伝える③（定着：グループワーク）		前回までの復習をしておく（1時間）		
6週	意見が違う相手に伝える		小レポート①「伝え方を学んで」（1.5時間）		
7週	VAKシステム①概要を理解する		同じ説明方法でも理解に差があることを感じておく（1時間）		
8週	VAKシステム②特徴をまとめる		テレビCMを見て、伝え方の工夫を見つける（1時間）		
9週	VAKシステム③活用：グループワーク		前回までの復習をしておく（1時間）		
10週	VAKシステム④定着：グループワーク		小レポート②「VAKを学んで」（1.5時間）		
11週	アサーション①概要を理解する		日常で嫌な言い方と許せる言い方を観察しておく（1時間）		
12週	アサーション②ロールプレイで実感する		前回までの復習をしておく（1時間）		
13週	言葉で伝えにくいものを伝える（図形伝達）		形や色合いを言葉だけで伝える実習をしておく（1時間）		
14週	図形伝達ゲーム①ペアで実習		前回までの復習をしておく（1時間）		
15週	WEBでの印象テクニック		WEB面接で何を準備するか考えておく（1時間）		
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）60%、提出物（小レポート）20%、受講態度20% 技能・表現…毎回行うボイストレーニングに対する取り組みと、技術の向上を評価する。 思考・判断…2回提出する小レポートと期末試験（レポート）により、学んだ内容を理解し、論理的に分析し、実生活上で活用できているかを評価する。 関心・意欲・態度…ペアワークやグループワークに対して、他者と協力して積極的に取り組んでいるかを評価する。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。 後期返還日2月10日（土）					
【テキスト】 授業時に毎回プリントを配布する。					
【参考書等】 コミュニケーションの書籍だけでなく、偏らず幅広い書籍を読むことを推奨する。					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 受講態度もコミュニケーションスキルの一つだと認識し、学ぶにふさわしい態度での出席を求めます。コミュニケーションスキルⅠの授業を履修しておく、理解をより深めることができますが、Ⅱの単独受講も可能です。					



授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
Basic English I (B112)	2	選択必修	1年 前期	演習	青山千枝子・鈴木 泉子・ ピーター・ヴァンデンベルグ
【キーワード】英文法、長文読解、英語の基礎、英検対策					
【授業内容・授業の目的】高校までに習った英語の知識を復習しながら、英語を読み、英語で書く基本的なスキルを伸ばし、これからの英語学習の総合的な基盤を作る。4月に行うレベルチェックテストの結果によって一人一人のレベルに合わせたクラスにわかれ、それぞれが必要とする適切な学習・指導を実現し、より効果的に英語力を強化する。テキストやプリント教材を使い各項目について簡単な解説と演習問題を行う。1週間に2回開講される授業のうち1回は「Reading」、もう1回は「Writing(Grammar)」の授業とする。					
【授業の到達目標(学習成果)】この授業を通して、社会人として必要とされる英語の基本的なスキルをしっかりと身につけながら、以下の学習成果を獲得することを目標とする。 知識・理解…日常生活に関連する英単語や熟語表現の意味を理解し、必要な文法知識を身につけ、英文を読んで正確に情報を読み取ることができる。 技能・表現…修得した語彙や文法の知識を活かし、自分の言いたいことを英文にして簡単な英語で説明することができる。 関心・意欲・態度…自分に必要な課題を見つけ、自主的に学習することができる。					
授業計画			準備学習等		
1回	オリエンテーション	教科書に目を通し、自分の苦手なポイントを見つけてまとめておく。(60分)			
2回	〈Writing〉英語のルール(1)品詞	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の文を作るパーツについて理解を深める。(60分)			
3回	〈Reading〉演習課題1 基本的な語彙	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
4回	〈Writing〉英語のルール(2)文の種類	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の文の種類について理解を深める。(60分)			
5回	〈Reading〉演習課題2 文の構造	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
6回	〈Writing〉英語のルール(3)文型	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の文型について理解を深める。(60分)			
7回	〈Reading〉演習課題3 文章の構造	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
8回	〈Writing〉基本時制(1) 現在形	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の現在形の用法について理解を深める。(60分)			
9回	〈Reading〉演習課題4 段落の構成	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
10回	〈Writing〉基本時制(2) 過去形	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の過去形の用法について理解を深める。(60分)			
11回	〈Reading〉演習課題5 段落ごとの要点をつかむ	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
12回	〈Writing〉基本時制(3) 未来形	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の進行形の用法について理解を深める。(60分)			
13回	〈Reading〉演習課題6 概要をつかむ	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
14回	〈Writing〉進行形(1) 現在進行形	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の現在進行形の用法について理解を深める。(60分)			
15回	〈Reading〉演習課題7 推測を交えて読む	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
16回	〈Writing〉進行形(2) 過去進行形	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の過去進行形の用法について理解を深める。(60分)			
17回	〈Reading〉演習課題8 キーワードを見つける	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
18回	〈Writing〉まとめ(1) 基本時制と進行形の使い分け	今までに習った範囲の教科書を見直し、自分の苦手なポイントを確認する。(60分)			
19回	〈Reading〉演習課題9 詳細情報を読み取る	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
20回	〈Writing〉現在完了形(1) 基本用法	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、現在完了形の作り方と基本用法を確認しておく。(60分)			
21回	〈Reading〉演習課題10 内容に関する質問に答える	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
22回	〈Writing〉現在完了形(2) 疑問文と否定文	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、現在完了形の否定文、疑問文の作り方を確認する。(60分)			
23回	〈Reading〉演習課題11 文章の要点を整理する	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
24回	〈Writing〉現在完了形(3) 過去形との使い分け	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、現在完了形と過去形の使い分けについて理解を深める。(60分)			
25回	〈Reading〉演習課題12 文章を要約する	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
26回	〈Writing〉過去完了形と未来完了形	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、過去完了と未来完了の用法について理解を深める。(60分)			
27回	〈Reading〉演習課題13 文章の読み方まとめ	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
28回	〈Writing〉まとめ(2) さまざまな時制	今までに習った範囲の教科書を見直し、自分の苦手なポイントを確認する。(60分)			
29回	〈Reading〉ポイント復習	定期試験に向けて、自分の苦手なポイントをきちんと確認する。(60分)			
30回	〈Writing〉ポイント復習	定期試験に向けて、自分の苦手なポイントをきちんと確認する。(60分)			
【成績評価の方法・基準】定期試験(筆記)と小テスト(レベルチェックテスト)80%、提出物(演習課題や自己学習課題)と受講態度(発言、グループワークなど)20%で評価する。 知識・理解…定期試験(筆記)と小テスト(レベルチェックテスト)の語彙問題や文法問題により、語彙や文法の知識がきちんと身につけているかを評価する。 技能・表現…定期試験(筆記)の作文問題や提出物(演習課題)により、知識を活かした正確な英文文法ができてきているかを評価する。 関心・意欲・態度…提出物(自己学習課題)や受講態度(グループワークなど)により、自分に必要な課題について、自主的・自律的に取り組んでいるかどうかを評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。前期返還日8月4日(金)					
【テキスト】※各レベルに応じて以下のテキストを使い分けていく。また、必要に応じてプリントを配布する。 Nancy Douglas 他『Reading Explorer I: Student Book with Online Workbook (Reading Explorer, Second Edition)』(Cengage Learning) ISBN 978-1-285-84685-9 富岡真『高校英文法をひとつひとつわかりやすく。』ISBN 978-4-05-303994-1 Naylor, H.『Essential Grammar in Use Supplementary Exercises(Fourth Edition)』(Cambridge University Press) ISBN 978-1-107-48061-2 ISBN 978-1-107-48061-2					
【参考書等】Raymond Murphy『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)』(Cambridge University Press)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 「毎日少しでも英語を使い、英語に慣れ、習ったことを忘れない」というのがこの授業の目的です。空き時間には自習用教材であるセルフチェックテストを積極的に活用し、自分のために英語力を磨いてください。『Basic English II』と併せての履修を推奨します。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
Basic English II (B207)	2	選択必修	1年 後期	演習	青山千枝子・鈴木泉子・ ピーター・ヴァンデンベルグ
【キーワード】英文法、長文読解、英語の基礎、英検対策					
【授業内容・授業の目的】高校までに習った英語の知識を復習しながら、英語を読み、英語で書く基本的なスキルを伸ばし、これからの英語学習の総合的な基盤を作る。4月に行うレベルチェックテストの結果によって一人一人のレベルに合わせたクラスにわかれ、それぞれが必要とする適切な学習・指導を実現し、より効果的に英語力を強化する。テキストやプリント教材を使い各項目について簡単な解説と演習問題を行う。1週間に2回開講される授業のうち1回は「Reading」、もう1回は「Writing(Grammar)」の授業とする。					
【授業の到達目標(学習成果)】この授業を通して、社会人として必要とされる英語の基本的なスキルをしっかりと身につけながら、以下の学習成果を獲得することを目標とする。 知識・理解…日常生活に関連する英単語や熟語表現の意味を理解し、必要な文法知識を身につけ、英文を読んで正確に情報を読み取ることができる。 技能・表現…修得した語彙や文法の知識を活かし、自分の言いたいことを英文にして簡単な英語で説明することができる。 関心・意欲・態度…自分に必要な課題を見つけ、自主的に学習することができる。					
授業計画			準備学習等		
1回	オリエンテーション	教科書に目を通し、自分の苦手なポイントを見つけてまとめておく。(60分)			
2回	<Writing> 英語の基本的なルール復習	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、英語の文を作る基本的なルールを確認しておく。(60分)			
3回	<Reading> 演習課題1 文章の読み方復習	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
4回	<Writing> 受動態の基本	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の受動態の用法について理解を深める。(60分)			
5回	<Reading> 演習課題2 語彙の強化	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
6回	<Writing> ささまざまな受動態	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の受動態について理解を深める。(60分)			
7回	<Reading> 演習課題3 日常生活の語彙	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
8回	<Writing> 助動詞(1) 基本的な助動詞	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の助動詞の用法について理解を深める。(60分)			
9回	<Reading> 演習課題4 仕事・ビジネスの語彙	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
10回	<Writing> 助動詞(2) ささまざまな助動詞	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の助動詞の用法について理解を深める。(60分)			
11回	<Reading> 演習課題5 自然・環境の語彙	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
12回	<Writing> 不定詞(1) 基本的な用法	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の不定詞の基本的な形と意味について理解を深める。(60分)			
13回	<Reading> 演習課題6 科学・ニュースの語彙	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
14回	<Writing> 不定詞(2) ささまざまな不定詞	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の不定詞の用法について理解を深める。(60分)			
15回	<Reading> 演習課題7 健康・医療の語彙	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
16回	<Writing> 動名詞(1) 基本的な用法	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の動名詞の用法について理解を深める。(60分)			
17回	<Reading> 演習課題8 語彙まとめ(1)	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
18回	<Writing> 動名詞(2) 不定詞と動名詞の使い分け	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の不定詞と動名詞の用法を確認する。(60分)			
19回	<Reading> 演習課題9 交通機関の語彙	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
20回	<Writing> 分詞(1) 基本的な用法	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、現在分詞と過去分詞について確認しておく。(60分)			
21回	<Reading> 演習課題10 人物・感情の語彙	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
22回	<Writing> 分詞(2) 分詞構文	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、分詞構文の用法について確認する。(60分)			
23回	<Reading> 演習課題11 基本的な熟語	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
24回	<Writing> 仮定法	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、仮定法について理解を深める。(60分)			
25回	<Reading> 演習課題12 ささまざまな熟語	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
26回	<Writing> 比較表現	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の比較級や最上級について理解を深める。(60分)			
27回	<Reading> 演習課題13 語彙まとめ(2)	自分のレベルの教科書の該当ページや配布プリントを読み、演習課題に取り組む。(60分)			
28回	<Writing> 関係代名詞・関係副詞	自分のレベルの教科書の該当ページを読み、英語の関係節について理解を深める。(60分)			
29回	<Reading> ポイント復習	定期試験に向けて、自分の苦手なポイントをきちんと確認する。(60分)			
30回	<Writing> ポイント復習	定期試験に向けて、自分の苦手なポイントをきちんと確認する。(60分)			
【成績評価の方法・基準】定期試験(筆記)と小テスト(レベルチェックテスト)80%、提出物(演習課題や自己学習課題)と受講態度(発言、グループワークなど)20%で評価する。 知識・理解…定期試験(筆記)と小テスト(レベルチェックテスト)の語彙問題や文法問題により、語彙や文法の知識がきちんと身につけているかを評価する。 技能・表現…定期試験(筆記)の作文問題や提出物(演習課題)により、知識を活かした正確な英作文ができているかを評価する。 関心・意欲・態度…提出物(自己学習課題)や受講態度(グループワークなど)により、自分に必要な課題について、自主的・自律的に取り組んでいるかどうかを評価する。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】原則として学生から提出された課題は全科目「試験・レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知らせします。後期返還日2月10日(土)					
【テキスト】※各レベルに応じて以下のテキストを使い分けていく。また、必要に応じてプリントを配布する。 Nancy Douglas 他『Reading Explorer 1: Student Book with Online Workbook (Reading Explorer, Second Edition)』(Cengage Learning) ISBN 978-1-285-84685-9 富岡憲『高校英文法をひとつひとつわかりやすく。』(学習研究社) ISBN 978-4-05-303994-1 Naylor, H.『Essential Grammar in Use Supplementary Exercises(Fourth Edition)』(Cambridge University Press) ISBN 978-1-107-48061-2					
【参考書等】Raymond Murphy『マーフィーのケンブリッジ英文法(初級編)』(Cambridge University Press)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 「毎日少しでも英語を使い、英語に慣れ、習ったことを忘れない」というのがこの授業の目的です。空き時間には自習用教材であるセルフチェックテストを積極的に活用し、自分のために英語力を磨いてください。『Basic English I』と併せての履修を推奨します。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
情報基礎演習 (B113)	1	必修	1年 前期	演習	齋藤 紀江
【キーワード】情報リテラシー、ICT機器理解、IT用語、文書作成、メール、Word、Excel、PowerPoint、表現技術					
【授業内容・授業の目的】1人1台のパソコンを使用し、ICT機器の基本知識と性格な操作方法、インターネット、メールなどの情報を扱うための知識と情報倫理を学びながら、Word、PowerPointを使用し、レポート、論文、社外文書、プレゼンテーション資料作成のための知識と操作について習得していく。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解…情報の取捨選別、情報倫理、情報基礎用語、資料の作成方法が理解できる。 技能・表現…TPOに応じてオフィスツールを使い分け、情報倫理を遵守しての表現ができる。 関心・意欲…習得した知識、技能を活かし、短時間で必要とされる資料の作成手順を完成する意欲がある。					
授業計画			準備学習等		
1週	Window 基本操作とタイピングとダウンロード		自分のキーボードタイピングレベルチェック(0.5時間)		
2週	インターネット基礎と情報倫理		情報トピックスを読む(0.5時間)		
3週	メール操作とメール文章作成		Google アカウントとパスワード設定しておく(0.5時間)		
4週	メール操作と送受信CC、BCC、転送		ログインとメール送受信できるようにしておく(0.5時間)		
5週	小テスト タイピング		指定レベルまでにタイピング練習(3時間)		
6週	表の作成(用途によるWord Excelの使い分け)		表の作成を読み不明点を明らかにしておく(1時間)		
7週	表現力アップ方法(画像、図、罫線)		スマホの高画質画像をアドレスに送信(0.5時間)		
8週	ビジネス文書の基礎知識		教科書ビジネス文書を読み不明点把握(0.5時間)		
9週	長文作成(アウトライン)		アウトラインを読み不明点把握(1時間)		
10週	長文サポート(目次、表紙自動作成)		9週の内容を理解(1時間)		
11週	小テスト タイピング WordとExcelの連携		指定レベルタイピング練習(2時間)		
12週	ExcelのWordへの挿入と修正方法		Excelの基本操作を復習しておく(1時間)		
13週	PowerPoint アウトライン、図、オブジェクト		PowerPointの基本操作を復習しておく(2時間)		
14週	PowerPoint グラフ、特殊効果、印刷		Excelのグラフ作成方法を復習しておく(0.5時間)		
15週	PowerPoint ノートスライドペン機能		教科書のスライドショーサポート理解(0.5時間)		
【成績評価の方法・基準】小テスト(実技)50%、提出物50% 知識・理解…ICT機器の用語と操作方法、情報倫理を正しく理解し、正確な文書作成と操作ができる。 技能・表現…対象によって表現方法をソフト、ハードを変えて表現できる判断ができる。 関心・意欲…学習した知識・技能を応用して正確確実に情報技術を扱う関心と意欲がある。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 メール返信および授業用専用WEBサイトに掲載。					
【テキスト】『30時間アカデミック情報リテラシー Offie2019』実教出版 タイピング WEB <a href="https://www.e-typing.ne.jp/">https://www.e-typing.ne.jp/</a>					
【参考書等】 『よくわかるマスター ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集』最新版					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 ・タイピングは必須スキルです。授業外でも積極的に練習してください。 ・USB(リムーバブルディスク)は授業1回目に販売します。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
Excel演習 (B114)	1	選択必修	1年 前期	演習	齋藤 紀江
【キーワード】表計算、Excel、集計、データ分析、グラフ、データベース、業務効率化					
【授業内容・授業の目的】 社会で必須スキルの表計算Excelの基本操作、大量の情報の集計の基礎知識と技術を学習し、ビジネスで活用するためのデータの読み解き方や分析方法を習得していく。					
【授業の到達目標（学習成果）】社会にて必須スキルのひとつ表計算を理解し仕事や地域で必要な資料を効率よく作成できることを目標にします。 知識・理解…表計算の特性を知り、ビジネス資料を分析・集計方法を知識として理解する。 技能・表現…大量のデータを早く処理し、分析、出力する技能を習得する。 思考・判断…企業や社会生活にある多くの情報を、授業で習得した知識や技能をどのように活用できるか、さまざまな表計算として使われているソフトを応用して使うことのできる判断力を持つ。					
授業計画			準備学習等		
1週	Excelの基礎知識、データ入力と編集		テキスト2章まで理解(1時間)		
2週	表の作成と基本関数		前回の復習と30分間テキスト3章まで理解(0.5時間)		
3週	応用関数の使い方		基本関数を確実に覚え応用関数の項目を理解(1時間)		
4週	シートと印刷・相対参照と絶対参照		テキスト5章までを理解(0.5時間)		
5週	相対参照と絶対参照の応用		テキスト5章を理解(0.5時間)		
6週	グラフの作成方法		テキストグラフ部分の理解(1.5時間)		
7週	図の利用の説明とデータベース基本操作		テキスト7章までを読んでおく(0.5時間)		
8週	データベース(大量データ)		8章の復習をして確実に理解しておく(0.5時間)		
9週	小テスト1 演習問題		実習のなかで不明点を明らかにしておく(2時間)		
10週	データの傾向と可視化		分析第2章まで読んでおく(1時間)		
11週	データベース分析の基本操作		分析第3章を読んでおく(1時間)		
12週	人気商品を仮説を立てて検証		分析第4章を読んでおく(1時間)		
13週	関係性の分析によるビジネスヒント		分析第5章を読んでおく(1時間)		
14週	シミュレーションして最適な解を求める		分析第6章を読んでおく(1時間)		
15週	まとめ 課題問題の解き方		いままでの週を総復習(2時間)		
【成績評価の方法・基準】課題作成50%、授業態度50% 知識・理解…Excelと他ソフトの違い、効率よく社会で必要とされる資料の作成する知識を理解できる。 技能・表現…学習した知識を操作でき、可視化し、他者に理解できる資料を出力できる。 思考・判断…請求書、勤怠管理など業務内容を理解した上で関数や式を設定するか判断できる。					
【課題(試験・レポート等)のフィードバックの方法】 メール返信および授業用専用WEBサイトに掲載。					
【テキスト】・Excelではじめるデータ分析 関数・グラフ・ピボットテーブルから分析ツールまで Excel 2019/2016 対応(よくわかる)大型本(FORM 出版:ISBN 4938927411)・情報基礎演習の教科書					
【参考書等】・マイクロソフト Excel サポートページ(インターネット)					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】USBに保存します。自分の使用するExcelバージョンと異なる場合は違いを理解しながら学習してください。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
情報と社会 (B201)	1	選択必修	1年 後期 (集中授業)	演習	齋藤 紀江
【キーワード】 情報革命、ICT、AI、2030年、格差社会、人口減少、高技能労働、多様性、福祉、環境、情報倫理、SDGs、GAFA					
【授業内容・授業の目的】 情報と情報社会の歴史を学び、情報通信技術が社会をどのように変えてきて現在に至ったか、地球規模から見る生活や経済活動のスタイルなど現在の影響を知り、情報化社会に適した知識を学習します。					
【授業の到達目標（学習成果）】 情報社会とは何か、産業革命の時代背景と情報通信技術との関係を理解する。過去・現在・未来の情報社会の在り方、情報技術についての知識を習得する。未来への情報社会のデータをもとに推測する知識をもつ。 知識・理解…学習した内容を理解し、情報社会に欠かせない用語や技術を理解する。 表現・技能…未来の地球をデータより見出す技能を習得する。 関心・意欲・態度…ニュースで使われる用語に関心をもち社会にどのように影響していくのか学ぶ意欲がある。					
授業計画			準備学習等		
1週	情報とは何か 情報の歴史		情報とは何か自分なりにまとめておく(0.5時間)		
2週	地球と人間の関係が変わる時代 GAFA		1週までを理解しておく(1時間)		
3週	特別講義		情報社会で関心ある事を明記しておく(1時間)		
4週	特別講義と質疑応答		質問事項を考えておく(0.5時間)		
5週	2030年未来と4つのデジタルイデオロギー		4週までのキーワードを理解しておく(1.5時間)		
6週	アメリカンデジタルイデオロギー		デジタルイデオロギーとは何か調べておく(1時間)		
7週	チャイニーズデジタルイデオロギー		6週のイデオロギーをまとめておく(1時間)		
8週	映画 情報技術の歴史と進化1		SNSの利点と欠点を調べておく(1時間)		
9週	映画 情報技術の歴史と進化2		情報技術の発展と暮らしを考えておく(0.5時間)		
10週	貧困・格差問題		映画を見たうえで7週までのキーワードを理解する(1.5時間)		
11週	サードウェーブデジタル		6～7週のイデオロギーを理解しておく(1時間)		
12週	ヨーロッパンデジタルイデオロギー		ヨーロッパの文化を2つ調べておく(1時間)		
13週	日本の未来への展望		今、情報社会で何が実際に起きているかまとめる(1時間)		
14週	2030年世界地図まとめ		13週までの内容を復習しておく(1時間)		
15週	課題レポート作成と提出(4)		14週までを理解しておく(1.5時間)		
【成績評価の方法・基準】 提出物80%、授業態度20% 知識・理解…授業で学習した用語、歴史を正確に理解できる。 思考・判断…学習した内容から課題について課題を正確にまとめ表現できる。 関心・意欲…テキストや映画からICTの歴史と現状、未来に対し情報社会のなかでどうするべきか関心を持つ。					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 課題用紙に添削後返却					
【テキスト】『2030世界地図帳』 978-4-7973-9995-0					
【参考書等】 ・情報通信白書（総務省編。デジタル書籍、無料でダウンロードできます） ・ITパスポート演習1で使用した教科書					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】2月初旬に集中講座として実施します。					

授業科目名	単位数	必修選択の別	開講時期	授業形態	担当者名
キャリアデザイン (B131)	1	選択必修	1年 前期	演習	小濱 知実
【キーワード】 ライフキャリア、ワークキャリア、自己分析、就職活動					
【授業内容・授業の目的】 自己理解（能力、興味、価値観）を深め、働くことの意義・目的を考えや人生を具体的にイメージし、短大生活や卒業後に自ら行動できるようになることを目標としている。この授業では①自分の特徴・価値観を見つける、②「良い仕事」を見つけるための自分軸を知る、③世の中にどのような業界・企業・職種があるのかを知り、視野を広げます。授業は参加型で他者とのかかわりを持ちながら進めます。					
【授業の到達目標（学習成果）】 知識・理解…業界・業種・企業の情報ソースや収集に関する知識を取得することができる 技能・表現…多様な情報を収集・分析して活用することができる 思考・判断…自分の価値観や特性を理解し、自分の人生を見通すことができる 関心・意欲・判断…職業観、価値観の多様性を受容し、グループ活動をすることができる。					
授業計画			準備学習等		
1週	オリエンテーション キャリアとは何か？ ゲームを通して人生を考えよう			シラバスを読んでおく (1時間)	
2週	自己分析① 自己分析の目的と重要性、人生を見通す 人生を見通してみよう ライフキャリア、ワークキャリアを考える			ワークシート (1時間)	
3週	自己分析② 過去・現在の自己分析 過去の経験の掘り起こし自分軸を見つける			ワークシート (1時間)	
4週	自己分析③ 自分を客観的に分析 エゴグラムと他者から見た私			ワークシート (1時間)	
5週	自己分析④ 働くとは？ / 自分にとっての「良い仕事」の条件を探る / パーソナリティと職業興味			ワークシート (1時間)	
6週	様々な働き方 労働・雇用・職業おにぎりワーク①			ワークシート (1時間) マップ作り、発表準備	
7週	おにぎりワーク②			ワークシート (1時間)	
8週	業界・業種・企業研究の導入① 世の中にある業界を知ろう 情報ソースの紹介、心得、ワークシートの実践			資料を読んでおく (0.5時間)	
9週	業界・業種・企業研究の導入② 業界を掘り下げよう			キャリア支援室やインターネットを活用してシートを完成 させておく (5時間)	
10週	自己分析⑤ 興味関心のある業界・業種・企業の洗い出し自己分析④の答 えをまとめる：自分にとっての「良い仕事」は何？職種研究に向けて			第5週のワークシート： 振り返り、持参 (0.5時間) ミニレポート (1.0時間)	
11週	社会の変化の分析① ヒット商品から見えてくる社会や価値観の変化を分析			ワークシート、調査 (1時間)	
12週	社会の変化の分析② AI、IoTで私たちの暮らしや働きはどう変わるか？ with コロナの働き方			ワークシート、調査 (1時間)	
13週	社会の変化の分析③、自己分析⑥ 新時代で自分はどうか貢献できるか、自分 をどう生かせるか			ワークシート (1時間)	
14週	組織で働くということ チームワークとは何か？チーム対抗ゲーム			ワークシート (0.5時間)	
15週	キャリアの方向性・まとめ			シートまとめ (1時間)	
【成績評価の方法・基準】 定期試験（レポート）30%、授業態度30%（グループワークへの参加度・意欲、 他者への支援等）、提出物（ワークシート、ミニレポート等）40% 知識・理解…発表の様子やワークシートの記述により評価する 技能・表現…ワークシートやレポートに情報ソースが記述されており、それが反映されているか 思考・判断…ワークシートに自分の価値観や特性、自分の人生について文字化、図表や絵などで表現でき ているか。レポートはそれらを文章化できているか 関心・意欲・判断…フォロワーまたはリーダーとして積極的にグループ活動できているか、しようとしてい るか					
【課題（試験・レポート等）のフィードバックの方法】 原則として学生から提出された課題は全科目「試験・ レポート等返還日」を設け、授業担当教員から返還します。学生の皆さんは、返還された課題を確認し、自 らの学習を振り返り、次の学習につなげてください。返還場所時間等の詳細は学期ごとに掲示等によりお知 らせします。前期返還日8月4日（金）					
【テキスト】 授業中にレジュメ資料及びワークシートを配付する					
【参考書等】 『業界＆職種研究ガイド』（マイナビ出版）、『日本の給料＆職業図鑑シリーズ』（給料BANK）、 澤井智毅『大人は知らない新しい仕事図鑑100』（講談社）、					
【学生へのメッセージ・履修上の留意点】 インターネットなどの進歩により、多くの選択肢や情報が与えられ るようになり、正解は一つではなくなりました。この授業では一つの答えを導くようなことはせず、「自分や 自分を含めた皆が頷ける解＝納得解」を求めます。そのために、毎回、自分のスタンス・考えを持って授業 に参加してください。今、身の回りで起こっていることに敏感になりましょう。					